

令和7年度 リーグ戦細則

本年度、関東理工科大学団体リーグ戦大会は、本注意事項ならびに JTA ルール「JTA テニスルールブック」に基づいて行う。

また、ペナルティは選手自身を罰するものではなく、スポーツマンシップにのっとった試合を円滑に行うためのものである。

〈注意〉テニスで決着をつけること。ルールの悪用は絶対にしない。

1. 出場資格

フォーシーズン制、同一大学において連盟登録四年以内ならば出場できる。

他大学へ移った場合は、以前在籍していた大学と合計して四年以内であれば出場できる。また、医学部・歯学部・薬学部・獣医学部の学生に限り5年・6年時の出場を認める。（個人戦については登録年数が4年以上でも学部生ならば可。院生は不可。）

さらに、総合大学においては以下の制限を設けた上で文科系部員の出場を認める。

- ① 理工科系の大学の選手は学部問わず出場可
- ② 総合大学においては、シングルス・ダブルス合わせて男子が12枠、女子7枠のうち男女共に3枠まで文科系部員も出場可能（重複の場合は2枠消費）
- ③ 文科系・理科系の区分は日本学術振興会が公表している審査区分表に準ずる。学部が大区分Aに属する場合は文科系、それ以外は理科系とみなす。（どちらにも属する場合は理科系として扱う）

https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/03_keikaku/data/r05/sohyo.pdf

2. 試合形式

男子：複3ポイント 単6ポイント

女子：複2ポイント 単3ポイント

・各試合形式

複：ベストオブ2タイブレークセットファイナル10ポイントタイブレークセットマッチ

単：ベストオブ3タイブレークセットマッチ

3. 使用コート

当連盟規約のコート使用参照。

- (1) コート選択権が原則として前年度に当該校の対戦があった場合は、前年度の逆とする。前年度対戦していない場合は、順位の高い方とする。幹事校は運営の都合上最優先とする。
- (2) 対戦は、同一サーフェス3面（男子）または2面（女子）を使用する。
- (3) レンタルコートを使用した場合は、必ず両校で折半する。

4. 使用ボール

- (1) ボールは、2又は4個入り缶のダンロップフォートを用いる。
- (2) ボールチェンジは9-11-11とする。
- (3) 試合中のパンク・ロストについては、ファーストセットの2ゲーム目・ボール交換後2ゲーム目までは（ウォームアップも含む）ニューボールとし、それ以後はセットボールと交換する。但し、セットボールがない場合はニューボールと交換しても良い。ボール交換は必ず2球とも行う。
- (4) 日没・水没となった場合には、選手が1個ずつ保管する。但し、両者の合意がある場合はニューボールと取り替えて良い。
- (5) ボールチェンジの順序を間違えた場合、間違えなかった時に本来ニューボールでサーブするはずだったプレイヤー（ダブルスの場合は組）が、次にサーブをする際に交換する。その後のボールチェンジは、そのゲームから11ゲームを換算する。
- (6) タイブレークに入るところでボールチェンジが来た場合には、次のセットの2ゲーム目が始まるところで交換する。ファイナルセットの場合は交換しない。

5. 試合

(1) 試合日

両校話し合いの元、その週の都合がつく曜日に試合を行う。

※本来は原則土日のため、両校で意見が割れた場合は土日にレンタル可能なコートを探し試合を行う。使用できるコートがない場合、指定されている週の平日など数日に分けて試合を行い、すべての試合が完了し次第結果を報告する。それでも試合ができない場合は無効試合とする。日曜日の試合が雨天中止、サスペンドの場合は7. 雨天の際の処置(5)を参照。

(2) 時刻

男女とも、複を午前9時00分とする。但し、コートが遠隔地にある場合のみ、両校合意の上で試合開始時刻を遅らせることを認める。なお、公共交通機関などによ

る遅刻は認められない。試合開始時刻が午前 9 時 00 分以外の場合は、事前に連盟に連絡する。

※遠隔地とは、自大学の最寄駅から会場の最寄駅まで始発で間に合わない会場と定義する。始発で間に合う場合は、遠隔地に当たらない。

(3) オーダー交換

オーダー交換は、男女とも複、単別々に行う。服は試合開始時刻 10 分前に行い、端は複の試合終了後 5 分いないに行う。この時間までに交換が行われなかった場合、複なら複、単なら単の試合を全て棄権として扱う。出場選手は、オーダー交換の際には「10.服装」の項目に従ったウェアを着用の上整列する。オーダー交換時に選手が欠けていた場合、その選手は棄権となる。

(4) 試合開始・延期の判断は、コートレフェリーと両校の主将・主務が、オーダー交換の 10 分前に集まり決定する。

(5) 試合順序

男子：複 第 3 位から順に第 1 位

単 第 6 位から順に第 1 位

女子：複 第 2 位から順に第 1 位

単 第 3 位から順に第 1 位

注) 試合の進行状況によりコートレフェリーと両校主将・主務の話し合いの上、試合の順序を変更することを認める。

(6) 試合開始直前のコート内でのウォームアップは 10 分以内とする。

また、このウォームアップとは別に、開会式前のプラクティス (30 分) を行うことを認める。但し、これを理由に主将主務会議、オーダー交換、試合開始時刻を遅らせることがあってはならない。片方の大学にプラクティスの意思がある場合、対戦校はこれを拒否することはできない。

加えて、雨天により中断し当日再開する場合、再開前に以下の基準でウォームアップを行うことを認める。

15 分以下の中断： 即再開

15 分を超える中断： 3 分間以内

30 分を超える中断： 5 分以内

- (7) 日没などで中断し日をあらためて再開する場合、10 分以内のウォームアップを認める。
- (8) 選手は、各ポイント終了後 20 秒以内、コートチェンジの際には各ゲーム終了後 90 秒以内、セットブレイクの際には 120 秒以内にプレーを再開する。このことに対するペナルティは「17.ペナルティの基準」を参照。
注) 時計は全て主審が計測する。主審はコートチェンジの際、60 秒で「Time」を宣告する。また、常に残り 15 秒において「15seconds」を宣告すること。
(45 秒「15seconds」→60 秒「Time」→75 秒「15seconds to play」→90 秒「Time Violation」)
- (9) 複数の試合が終了後、昼休憩として 45 分までのレストを認める。
- (10) 対戦が終了しない場合は、コートレフェリーおよび両校主将・主務の話し合いにより延期日時を決定する。サスペンドの内容（サービスサイド、ポイント等）はコートレフェリーが記録する。また、その内容を連盟に報告する。
- (11) 試合結果が**試合翌日午前 9 時 00 分**までに報告されていない場合は、その対戦を棄権として扱う。
- (12) 試合中にコンタクトを落とした場合は、1 試合につき片側 1 回、合計 2 回まで探してから装着するまで 3 分間の時間を認める。本人・ベンチコーチ・質疑権所有者のみが探せるものとする。
- (13) トイレットブレイクはシングルス 1 人 1 回、ダブルスは 1 組 2 回までセットブレイク時に**7 分間**とることができる。但し、状態が深刻であると主審が判断した場合は例外を認める。また、女子に限りシングルスは着替えを理由に更に 1 度、**合計 2 度のトイレットブレイクを認める**。ウォームアップ中も試合と同様回数に数える。トイレットブレイクには相手校のコートレフェリーまたは質疑権所有者が同行すること。ベンチコーチはついて行ってはいけない。

6. コートレフェリー

- (1) 両校 1 名ずつコートレフェリーを選出する。コートレフェリーは主将主務会議に参加し紹介する。

- (2) コートレフェリーは、本年度理工連盟登録者に限る。また試合前、両校の話し合いの段階で代理人1名を決めておくことにより、コートレフェリーが試合に入る際の代理を立てることで**コートレフェリーの試合参加を認める**。代理人を立てる場合は、代理人も主将主務会議に参加し紹介する。

(3) コートレフェリーの仕事

- ① 定刻にオーダー交換を行う。
- ② 試合中のトラブルを解消する（「16.質疑・抗議」参照）
- ③ 天候・日没の判断・話し合いを行う
- ④ 対戦結果を連盟に報告する。
 - 1) 試合結果を、試合翌日午前9時00分までに連盟宛に報告すること。これは両校のコートレフェリーとも行う。これを行わなかった大学は棄権とみなし、その試合を全てdefとする。
 - 2) 本部に何か連絡する場合は、両校のコートレフェリーとも行う。
※但し、トラブルを解決することがコートレフェリーの仕事であるため、本部への問い合わせは最終手段である。

- (4) コートレフェリーは中立の立場にあることを尊重し、互いに協力して規約・細則に明記された判断・判定を行う。

※コートレフェリーは常に相手の陣地に立つ。もしこれを行わない場合、レフェリーおよび質疑権所有者の権利を全て剥奪する。

7. 雨天の際の処置

- (1) 原則、コートレフェリーと両校の主将・主務は、オーダー交換の10分前（試合開始の20分前）にコートに集合してコート状態を判断し、試合の可能、不可能を決める。但し、天気回復が見込めず、両校の同意がある場合に限り、当日朝6時の判断を認める。
- (2) 開始時間を遅らせれば試合を行うことができると決定した場合は、あらためて開始時刻を決め直す。その際、試合開始が遅れる旨を連盟に連絡する。
- (3) 試合中に雨天となった際、中止の時期の決定はコートレフェリーが行う。
- (4) いずれの対戦でも、雨天中止になった場合は、オーダー交換はしない。

(5) 日曜日が雨天で中止およびサスペンドの場合、両校の話し合いで翌週に試合を行う。但し、話し合いで試合が決まらない場合は、5.試合(1)試合日を参照。

(6) 両校話し合いの上、試合の勝ち負けが決まれば打ち切りを可能とする。但し、雨天や日没で全試合が消化できない場合に限る。

8. 日没の際の処置

(1) 日没時刻は、当日の朝刊の新聞発表時刻を用いる。

(2) 日没時刻以前に日没を理由としたサスペンドを行うことは認めない。

(3) 日没時刻以降については、両選手の合意によってのみ試合を続けることを認める。コートレフェリーは両選手の意見を聞いてサスペンドの決定を行う。

(4) ナイターがある場合は、必ずつけて試合をすること。但し、完全にナイターがつくまでは試合の中断を認める。その際、主審が中断時刻を計ること。

9. オーダー

(1) オーダーは、当連盟規約に従う。

(2) オーダー用紙は、当連盟指定の用紙を使用し、毛筆又はペン書きとする。オーダー用紙はコピー（同倍率のみ）して使用することを認める。

(3) オーダー順位の間違いと選手の氏名を間違えた場合、そのオーダー用紙に記載されたすべての試合を1セットダウンで行う。

オーダー順位以外の次の誤り、修正液の使用、日付・正式団体名・部印などの書き間違いまたは欠落、部印が団体名に重ねられていない場合は、そのオーダー用紙に記載されたすべてのポイントのコート・サーブ選択権および1ゲームを失う。この規約に明確に違反したオーダーを交換した大学は、試合前にオーダーを規約に沿って、当日のオーダー用紙に記載されている選手の範囲内で相手校の要求通りに変更しなければならない。

但し、オーダー交換後10分以内に抗議のない場合は承認されたとして試合は成立する。これらの処置は、相手校の主将・主務の提訴があった場合にコートレフェリーが行う。

- (4) 未登録者が出場したことが発覚した場合は、その部における該当大学の全試合を没収試合とする。
- (5) オーダーは、それまで行われた試合の自校のオーダーを全て添加する（コピー可）。日付はそれぞれの試合を行った日（サスペンド等があった場合は、オーダー交換を行った日）の日付を記入すること。それを相手校に1通のみ必要になる。これを怠った場合、そのオーダーに書かれた該当大学の全ポイントを無効にする。
- (6) 訂正箇所には二重線を引き、部印がそれに係るように押すことで訂正を認める。但し、修正液の使用は認めない。また、オーダー交換後の訂正も認めない。
- (7) 複オーダー交換時に複のオーダー用紙を主将が所持していなければ複を def、単オーダー交換時に単のオーダーを所持していない場合は単を def とする。
- (8) 選手が足りない場合、オーダーは順位の上から詰めて書くこととする。
- (9) 故意による登録ミスは全試合没収となり、1部格下げとなる。（未登録選手や文化系選手の出場資格違反などが該当する）

10. 服装

- (1) 選手の服装は、シャツ、ショーツおよびスコートともにテニスウェアであれば色は問わない。シャツは襟なしでも良い。
- (2) ウォームアップ、トレーナー、スパッツ、帽子、バンダナ、リストバンド類の色は問わない。
- (3) Tシャツ着用での試合、試合直前のアップは認めない。これに違反した場合はその選手を失格とする。但し、事前の話し合いで両校の同意があればこの限りではない。
- (4) 応援者・審判・ベンチコーチはテニスウェアを原則とし、Tシャツ・防寒具も認める。色は問わない。

11. 審判

(1) 主審を出す順序

男子：コート使用校	複	第3位、第1位
	単	第5位、第3位、第1位
相手校	複	第2位
	単	第6位、第4位、第2位
女子：コート使用校	複	第1位
	単	第3位、第1位
相手校	複	第2位
	単	第2位

注) 大学会場以外で試合を行う場合、コート使用校についてはコート選択権所有校として扱う。

(2) 副審を出す順序

主審を出す順序の逆とする。

(3) 線審

両校話し合いの上、出すことができる。

(4) 審判は、本年度理工系登録者が行う。但し、相手校が認めればその限りではない。

(5) コール範囲

- ① フットフォルト・ノットアップ・ファウルショットは主審、サービスのレット・タッチネットは主審または副審のコールで有効になる。線審をつける場合、ベースラインのフットフォルトは線審、センターは主審が見る。
- ② ラリー中のレットは、主審のコールがあるまで続行する。もし選手が止めた場合は、止めた選手の失点とする。
- ③ オーバーコール・オーバールールは認めない。
- ④ フットフォルトは無警告で取る。
- ⑤ 主審はベースライン、主審側のサイドライン、センターラインをジャッジし、副審はサービスライン、副審側サイドラインをジャッジする。線審をつける場合、ベースラインは線審が見る。
- ⑥ ブラインドのジェスチャーがなされた場合は、主審ならば副審、副審ならば主審にその判定を委ねる。但し、このジェスチャーがなされずに後になってミスジャッジの言い逃れとしてブラインド等は理由にならない。

(6) 主審は、5.(8)で示したすべての権利を有する。

(7) 主審はコートレフェリーを呼ぶ権利がある。

(8) 審判の降板

ミスジャッジ等によりコートレフェリーからクレームがついた場合、1回目を「警告」、2回目を「降板」とする。この際、ミスジャッジが故意であったかどうかは関係ない。降板となった審判は、同対戦中他の試合の審判には入れない。

(9) 降板になった場合、代わりの審判が入る際は相手校から審判を出す。

(10) 審判が理由なく審判台を降りた場合、1回目を「警告」、2回目を「降板」とする。但し、コートレフェリーからボールマークの確認等を要求された場合はこの限りではない。

12. メディカルタイムアウト

(1) 負傷（捻挫、外傷等）をした際には、主審に対してメディカルタイムアウトを取れる。取るタイミングは、座る前に主審に申請した場合に限る。そのエンドチェンジ及びセットチェンジにとることができる。

メディカルタイムアウトは1回3分、各部位につき1回とする。再開できない場合は棄権とする。治療はコート内で行い、コート内には本年度連盟登録者のみ入ることができる。医師などはコート内に立ち入ることはできず、これに違反した場合、その選手を失格とする。

(2) 治療中のアドバイスは禁止である。コートレフェリーは必ず治療に立ち会い、3分間の計測を行う。

(3) 筋痙攣によるメディカルタイムアウトは認めない。

13. ベンチコーチ

(1) ベンチコーチは本年度連盟登録者が行う。また、大学の監督およびコーチもこれを行うことができるが、その日に試合に入れるのは1名とする。また、事前に申請していない監督・コーチは行うことができない。

- (2) ベンチコーチは各コート 1 名までとする。交代する時は、1 人が退出してから次の者が入ること。その旨は必ず主審に告げる。人数不足により主審がいない際には、通告の必要はない。
- (3) ベンチコーチは、むやみにその場を離れたり、コート内に立ち入ったりしてはならない。これに違反した場合、コートレフェリーがベンチコーチに「警告」をし、2 回目にはその試合のベンチコーチをなしで行う。
- (4) ベンチコーチ以外の人は、選手にコーチングやアドバイスをしてはならない。また、ベンチコーチもコートチェンジの際以外にはコーチングやアドバイスをしてはならない。これらに違反した場合、コートレフェリーが当該選手に対してポイントペナルティ制度を適用する。
- (5) ベンチコーチは、チェンジコートおよびセットブレイクの際、選手との接触およびストレッチの手助けを行なっても構わない。また、選手はベンチコーチを通して物資の補給を行なっても構わない。

14. ボールパーソン

- (1) ボールパーソンは本年度連盟登録者が行う。但し、相手校が認めればその限りではない。
- (2) ボールパーソンをどのようにつけるかは、両校の主将主務会議で決定する。
- (3) ボールパーソンは中立であり、応援は禁止する。これに違反した場合、コーチングとして当該選手に対してコートバイオレーションが適用される。
- (4) ボールパーソンのボールのひどい取り合いは禁止する。これに違反した場合、該当する大学の選手に対してコートバイオレーションが適用される。
- (5) ボールパーソンの服装は、選手と同様とする。但し、ウォームアップの着用は認める。

15. 応援

- (1) 応援者は、本年度連盟登録者が行う。但し、相手校が認めればその限りではない。

- (2) 応援者は、必要以上に選手に近づかないこと。試合の進行を遅らせないように注意する。
- (3) 相手選手に対するものはすべて禁止する。応援とは試合を盛り上げ、自校の選手を勝利に導くものであり、相手選手を野次するためのものではない。よって、声を上げ、罵声を発し、ジェスチャー・器具などを用いて相手校・相手選手・審判などの心理を錯乱させるような行動およびプレーの妨げとなる行為をしてはならない。
- (4) 男子部のものが女子部、女子部のものが男子部の応援をする際は拍手のみとする。但し、女子部がなく男子部の中に女子部員が存在する場合、その女子部員は男子部員と考える。また、相手校が認めればその限りではない。
- (5) 不正な応援への処分
 - 1 回目：学校全体に対する処分
 - 2 回目：不正な応援をしたものが退場。誰が野次を行ったのか不明な場合、その面の選手に対してポイントペナルティ制度を適用する。
- (6) コーチングやアドバイス等に対する処分
当該選手に対してポイントペナルティ制度を適用する。
- (7) 以上(5)(6)の処分は、コートレフェリーが客観的に判断して行う。なお、その行為が故意でないにしても同様である。

16. 質疑・抗議

- (1) 試合についての質疑は、本細則並びに JTA ルール「JTA テニスルールブック」に基づき、コートレフェリーが処理するものとする。
- (2) 選手
選手は、主審に要請することでコートレフェリーを呼ぶことができる。しかし、質疑に関していかなる権利も有さない。質疑を行う際、コートレフェリーに状況の説明を行うことは認め、それ以降の質疑には関わらない。
- (3) 主審
主審は、選手もしくはベンチコーチがコートレフェリーを要請した場合、試合信仰上支障がなければコートチェンジの際に、コートレフェリーの質疑の対応ができるようにしなければならない。但し、ポイントの判定に関わる場合は、対象のポイント

ト後直ちにコートレフェリーを呼ばなければならない。さらに、怪我やアクシデントが起こった場合にも同様に直ちにコートレフェリーを呼ぶ。

(4) 質疑権所有者

質疑権は、各校主将・主務の両方にある。また、主将または主務が同時に試合に入る可能性がある場合、代理人1名（本年度理工連登録者のみ）を出すことができる。その場合、代理人を立てる旨をコートレフェリーに申請する。

質疑権所有者は、試合の進行に関する問題の質疑、または相手校の応援等に対する質疑をコートレフェリーの要請があった場合に行うことができる。但し、プレーや審判の判定に関する質疑には加わず、コートレフェリーの判断に委ねることとする。

17. ペナルティの基準

(1) タイム・バイオレーション

主審が適用する

以下に違反事項を示す。

- ① ウォームアップの時間経過後、“20 seconds to play”の指示から、20 秒以内に試合を開始しない。
- ② 不注意による 20 秒ルールの違反
- ③ 不注意による 90 秒ルールの違反
- ④ 不注意による 120 秒ルールの違反

以下にペナルティ内容を示す。

1 回目：警告

2 回目以降：違反ごとに 1 ポイント

(2) コード・バイオレーション

コートレフェリーが適用する。

以下に違反事項を示す。

① 理由のないゲームの遅延行為

- ・ “Let’s play”の指示から、20 秒以内に試合を再開しない
- ・ 負傷による中断後、“20 seconds to play”の指示から、20 秒以内に試合を再開しない
- ・ 自然体力消耗に陥って、試合の続行ができない。

② みだらな言葉

③ コーチング

④ みだらな態度

- ⑤ ボールの乱用
 - ⑥ ラケット等道具の乱用
 - ⑦ 言葉での侮辱
 - ⑧ 態度での侮辱
 - ⑨ その他スポーツマンシップに反する行為
(相手コートのボールマークを調べるために、ネットの線を超えて相手の方のコートに入る等の行為を含む)
 - ⑩ インプレー中の応援
- 以下にペナルティ内容を示す。
- 1 回目：警告
 - 2 回目；1 ポイント
 - 3 回目以降：違反ごとに 1 ゲーム

18. 語句

(1) 退場

退場となったものは、それ以前に選手として獲得したポイントは失わないが、それ以降の当該 1 対抗戦の試合に関する全権利を失う。

- (2) 両校の同意とは、必ず試合が始まる前までに行うものとする。一旦同意された事項についてそれを取り消すには、さらに両校の同意を必要とする。また、同意を行う際には、その事項がどの試合に対していつまで有効であるのかをはっきりとさせ、コートレフェリー立ち会いの元、その事項について記録しておくこと。

19. スマートウォッチについて

コーチング防止の観点から、**試合に入る選手の着用を原則禁止**とする。

指摘されても外さない場合、以下のペナルティを課す。

- 1 回目：警告
- 2 回目以降：ポイントペナルティ

この指摘は、コートレフェリーが行うことができる。